

このページは、小・中学生に向けて
 梅光学院大学子ども学部子ども
 未来学科(地域共生ゼミ)の学生が
 作っています。

※イラスト 西田智則さん



▲塔の高さは海面から141メートル。吊橋にかかる力を支えるケーブルは直径664ミリ、間隔29メートルで左右2本かけられています。

しものせき キッズページ

「関門橋40周年」



関門橋は、今年の11月、開通してから40年を迎えます。今回はその関門橋について紹介します。

本州と九州を結ぶトンネルと橋



下関と九州の間にあるものと言え、関門海峡「関門トンネル」、そして「関門橋」です。始めは、下関と北九州を行き来する方法は船でしたが、1942年に関門鉄道トンネルが、1958年に関門国道トンネルが完成し、車や徒歩でも行き来できるようになりました。その関門トンネルの

皆さんは、関門橋が何色か知っていますか。正解は「グリーンブルー」です。赤ではなく、なぜこの色かという、周りの景色を考へて、自然にとけ込むようにと、グリーンブルーに塗られています。関門橋の長さは1068メートル、幅は26メートルで、海面からの高さは61メートルです。関門海峡はたくさん大きな船が行き来するため、余裕をもって航行できるように、61メートルの高さになっています。関門海峡はたくさん船が通るため、橋を作る時も、両側の主塔を作ったから、他の部分を上から吊っていたそうです。

関門橋のあれこれ



交通量が年々増えてきたことから、トンネルが渋滞しないように新しい道を作る計画が立てられました。それが、関門海峡を吊り橋で結ぶ「関門橋」です。関門橋は1968年に工事が始まり、5年後の1973年11月14日に開通しました。現在、車のための「関門国道トンネル」とJR線の「関門鉄道トンネル」の他、新幹線用の「新関門鉄道トンネル」、さらには関門海峡の海底を歩いて渡れる「人道トンネル」が、関門海峡の下にあります。

関門橋の今



関門橋の6車線と関門国道トンネルの2車線を併せると、1日約8万台の自動車が通れます。このように、関門橋は本州と九州を結ぶとても重要な橋であることが分かります。

現在(11月5日、29日)、関門橋で大切な工事が行われています。関門橋の安全・安心を保つため、初めて、大規模な交通規制を行い、工事をするそうです。

さらに、10年計画でリフレッシュ工事が考えられています。壇之浦のパーキングエリアにケーブル標準断面図の模型が設置され、その全体を知ることができます。人道トンネル入口横の関門プラザも、10月16日にリニューアルオープンされました。関門橋や関門トンネルについて楽しく知ることが出来ます。ぜひ一度、訪れてみてください！

**関門プラザ
リニューアルオープン!**
 場所 みもすそ川町
 詳細 NEXCO西日本
 (☎232-2811)

11月号の編集記者(左から)
 渡邊由季さん、檀綾花さん



▲関門プラザでは、関門橋ができるまでの工程が写真などで分かりやすく説明してあります。



▲1971年12月に撮影された工事の様子。車道部分は両側の主塔から作られました。